

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 阿波市立土成中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 70名 第2学年 69名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳科) (1・2年) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ選手の体験を直接聴く機会を通して、その思いや生き方に共感する。また、共に支え合い、共に生きていこうとする態度を養う。 ・講話等の体験学習を生かして、スポーツの価値や効果について理解すると共に、スポーツに積極的に取り組もうとする生徒の育成を図る。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保健体育科の授業において「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックやパラスポーツについての知識理解を深めた。 <p>(1) 第1学年 徳島県立徳島視覚支援学校教員で柔道家である藤本聰さんをお招きし「自分を試せ、柔の道は開ける～四半世紀の挑戦～」というテーマで講演を行った。生徒は、藤本さんの勇気と誇りを持てる生き方や覚悟を持った後悔しない生き方に触れ、前向きに生きていく生き方が自分の成長につながることを学ぶことができた。</p>
	

	<p>(2) 第2学年</p> <p>株式会社ワークスアプリケーションズワークス徳島人工知能NLP研究所、岡部裕子さんをお招きし「自分らしく生きる～車いすテニスと出会って変わった世界～」というテーマで講演及びテニスによる交流を行った。岡部さんの講演から「自分らしく生きるために」は、自分を知ることや自分で判断する力をつけること、社会のために努力することが大切であることを学ぶことができた。また、テニスによる交流会では、希望者が岡部さんとラリーを行い、岡部さんの車いすテニスの技術の高さだけでなく、チャレンジする素晴らしさや、スポーツを通して人と人がつながることができることを実感することができた。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・阿波市ケーブルテレビに撮影を依頼し、地域や保護者への啓発を図った。 ・講演後、生徒の感想を学年便りに掲載し、保護者への啓発を図った。
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業前はパラスポーツやパラリンピックは知っていても、興味や関心を持って関わるのが少なかったが、事業後は興味・関心をもつ生徒が増えた。 ・ケーブルテレビや学年便り等で、保護者や地域の方に啓発を図ることができた。 ・人権学習のひとつとしてパラリンピアンによる講演を計画し実施したことで、生徒たちの人権意識を高めることができた。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技(テニスによる交流)を取り入れることで、生徒の興味を高めることができるように計画した。 ・本校の人権教育と今回の講演をひとつの取組としてつなげるために、事前学習や事後学習を工夫した。 ・ケーブルテレビや学年便り等で、保護者や地域の方に発信した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技(テニスによる交流)で、生徒の車いすでのラリー体験を実施することができなかつたので、車いす体験も兼ねた実技による交流ができるような計画を立てる必要がある。 ・今年度は実施期間が短く1、2年生だけの実施になったので、来年度は計画的、組織的に取り組み全学年において実施できるようにする。 ・今年度は実施後の地域や保護者への啓発活動を行うに留まったので、来年度は、可能ならば事前に地域や保護者の方に呼びかけ、一般の方の参加も促す。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は全学年で講演や交流会を実施できるように、計画的・組織的に取り組む。 ・本校の人権教育の取組とリンクさせ、より効果的な取組を実践する。